

## 各施策の「重み付け」欄の概要

### 1 概況

106の施策の「重み付け」欄の概況は、「客観指標重視」が56施策、「市民実感重視」が50施策となっており、ほぼ半々となっている。

	客観指標重視	市民実感重視
第1章（安らぎ）	25 施策	20 施策
第2章（華やぎ）	26 施策	23 施策
第3章（信頼）	5 施策	7 施策
合計	56 施策	50 施策

### 2 特徴

#### (1) 客観指標重視の施策

対象者が限られる分野（例えば、1133障害のある子どもの教育の推進、2235大学・学術研究機関の振興）や、施策の成果がすぐに市民実感に反映されにくい分野（例えば、2311保全・再生・創造を基調とするまちづくり、3420公共事業の再評価）などの施策において、「客観指標」を重視している。

#### (2) 市民実感重視の施策

市民全般を対象とし、かつ直接的に施策効果が実感されやすい施策などにおいて、「市民実感」を重視している。

（例えば、1225子どもたちがのびのびと健やかに成長できるしくみづくり、1332消費者が自立し安心してくらするまちづくり）

#### (3) 精査すべき課題

- 同一の政策において、客観指標評価を重視する施策と、市民生活実感評価を重視する施策が混在している場合において、異なる重み付けを選択していることを明確に説明できるか。
- 重み付けの理由について、「施策目的にとって実感が重要」、「対象者が限定され、実感に反映しにくい」などの理由が付されているが、同様の理由が想定される施策について同じ理由が付されているか。また、理由は明確に説明できているか。